



同窓会報

第29号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同窓会事務局
仙台市青葉区川内瀬橋通一
番二二一五六二六
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区大手町六番二二号

廻る風、未来への風

彫刻「サークル・ウィンド」を

職員 鹿股英生

平成六年三月卒業生（四十
六回生）の卒業記念品は、大
理石の彫刻「サークル・ウイ
ンド」でした。平成六年二月

十五日製作者立ち合いのもと、
本校の正面玄関に設置致しま
した。

作者は、本校二十回卒の武

藤順九氏（本名順一氏）で、
現在イタリアに在住し、主に
石の彫刻の製作を続けておら
れます。つい最近も（九月中



旬）藤崎デパートで個展を開
催され、会場には同窓会長の
堀田先生からの盛花も作品に
花をそえていました。国内よ
りは国際的に有名な、実力派
の彫刻家です。尚、彼の油絵
の作品は、本校二階の講堂入
口近くに飾られており、あの
紫色を主体とした柔らかなタッ
チの絵を覚えていた方も多い
と思います。

今回の作品は、白地にまだ
ら模様の黒い部分が入った一
メートル立方の大理石をけず
り、薄手のハート型に仕上げ
た作品です。作者の話により
ますと、あの形はエネルギー
の源であるハート型を原点に、
力強く廻り出ていく風を考え
ながら作ったということです。
二高をこれから果立っていく
若々しい力を象徴するようで、
卒業記念品としては最適のも
のと思っています。

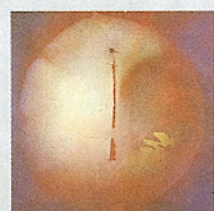
尚、卒業記念品を選定する
に当り、父兄と学年担当者で
まず確認し合ったのは、①卒
業した後も二高に來た時の心
の拠り所となるもの、②二高
の続く限り学校に残るもの、
③後輩達の情操教育に役立つ
もの、といった品を選ぼう、
ということでした。唯、例年



シリーズ「記憶の壁」
1995年キャンバス油絵 100×100cm



彫刻



シリーズ「マスカ」
1996年キャンバス油絵 100×100cm

（平成8年度 武藤順九絵画と彫刻展）

の予算と比較し、多すぎる出
費は避けねばならないという
ことで、作者の武藤氏には御
無理をお願いし、破格の料金
で製作を引き受けて頂きまし
た。「後輩のお役に立てるの
なら喜んで」という氏の言葉
に感激致しました。

二高においでの際は、ぜひ
正面玄関にあるこの作目をゆっ
くり御覧頂ければと思います。
【鹿股英生先生は高四十六
回生の学年主任でした】

創立百周年行事の話し合い進む

同窓会・PTA・学校一体の事業

「百周年ワーキング会議」

創立百周年を迎えるのは、平成十二年（西暦二〇〇〇年）で、四年後に迫りました。百周年に関連する諸行事の計画立案を、同窓会・PTA・学校の三者合同で精力的に押し進めているところです。

百周年ワーキング会議がその中心になって動いているわけですが、残暑なお厳しい八月二十七日（火）に、本校校長室に於いて「第六回ワーキング会議」が開催されました。ご多忙の所十一名の委員が出席して、過去五回の話し合いの成果を踏まえつつ、具体的な実施計画を熱心に討議しました。

（出席者）

堀田康哉同窓会会長・石井敏夫同窓会副会長・高橋正道同窓会副会長・松永行康同窓会副会長・田中光彦同窓会副会長・新本恭雄PTA会長・正田英子PTA副会長・岡村

昌幸PTA副会長・岩本旬二教頭・芳賀勝美PTA事務局長・横山文彦同窓会事務局長・下河辺行隆教務部長。

◇ ◇ ◇

「開会の挨拶」

堀田同窓会会長…お忙しいところお出ましいただき有り難うございます。第八回目のワーキング宜しくご審議いただきたいと思います。

「五回目ワーキングまでの総括」

★百周年記念計画の基本コンセプトとして二十一世紀に於ける仙台大の理想像を掲げる必要がある。誰もが入りたいたいと思え、入れば素晴らしい環境と良い教職員、生徒同士の啓蒙、これらのことが一目でわかるような学校にしたい。
A…これを百周年にからめて文章化すれば、更にそれをたたき台にして検討できる。
B…一言でも、簡潔書きでもよいから分かりやすい表現で

提出していただきたい。

★三者役割分担の明確化
同窓会では役割分担が進んでいるので、学校・PTAでも役割を明確化してほしい。

★百周年計画組織の見直し
↓百周年事務局の設置等組織の明確化を図る。

C…事務局長・局員の人選・設置場所等も明確にすべきだ。
D…次回のワーキングまでには出してもらいたい。

◇ ◇ ◇

「百周年記念会館計画」A案・B案の審議

E…本日の審議事項です。A案とは現在北陵会館のある場所に建設する案で、B案とは正面の向かい、道路を越えた南校地・体育館の東側に建設する案です。

学校の方で休み明けに検討してみました。条件を考えるとB案にならざるを得ないのでは、との結論になりました。建設の場所ですが、この会議



終了後実地検分したいと思えます。地図などで見ますとあそこではやや狭いように思えます。会館の多目的機能を考えると二階では厳しいので三階規模を考えました。
百名規模での合宿・集会を考えています。合宿に必要な厨房・冷暖房・風呂の設備と小会議室もあれば、という所でお話し合い願いたい。
F…A案とB案というよりB案しかないと言っているのでは？
H…先日冷房を入れていただいた、学校で一番大きい教室の合同講義室は収容が約六十名です。講習・放課後の指導・一斉指導等に十分活用できるのではないかと思います。
I…百名位の集会室か？

J: テーブルがいいのか折り畳み式のテーブルがよいのかという問題もある。

K: 部屋の用途と必要なものを具体的に明確にだしてもらいたい。冷暖房・風呂・厨房も具体的に提案していただくと、設計上出来るかどうかの検討ができる。

L: 集会室ですが、現在行っている校外学習合宿の集まる人数が百名位です。

M: 学習合宿と運動合宿の両面で使える場所ですね。

N: 合宿の際にはどの程度まで料理するのか。味噌汁・ご飯が出来る程度でいいのか、ガスレンジなど料理もしてゆくのか。

O: 部屋数もどうするか問題ですし、風呂もバス・シャワーをどう按配するのか、ステナレスは錆びませんが、合宿もベッドで寝るのか布団で寝るのか。

P: フローリングにしておいて畳・布団はリースでも考えられますね。そうすれば会議室として自由に使えますし。

Q: 普段はどう使いますか。
R: 会議や合宿の現状把握をしていただき、宿泊・学校内外の会議集会の頻度・利用目

的・人数を出してもらおうと、設計図が引きやすいですね。

最大ピークで何人になるのかで風呂の大きさも違ってきますし、無闇に大きいのもコストの面で作れません。

S: コストの面ではガスか石油か調べる必要がありますし、プールの改装との兼ね合いも考えなければなりません。

T: 百人の合宿と百人の集会は重なることもありますか。

U: 二高生は合宿中にも勉強しています。

V: 同窓会の常任幹事会は何人の規模ですか。

W: 大体八十人前後です。

X: 会館で常任幹事会が開けるわけですね。

Y: 同窓会としては同窓会事務局も会館に置いたらどうかという案もあったが、子供たちを中心に考えていただいてよい。

Z: どう使うか、名称を募集してもよいし、とにかく欲張った要求を出していただきたい。結局図面を引くときに割り引かれますので。(笑い)

◇ ◇ ◇ 「記念式典・祝賀会計画」

A: 日程は決めてよいのでは
B: 十月・十一月初旬のあた

りですか。

C: 学校行事との絡みもありますが、絞りこんで原案を出してほしい。会場は?

D: 市内の前例を見ると、式典はサンプラザ、祝賀会はメトロポリタンのケースが多いようだ。

E: 国際センターが場所的にはいいが、収容人数が千五百人と多くない。サンプラザは二千入収容できるが値段に難がある。

F: モニターテレビを使用すれば、国際センターでも可能ではないか。

(会場の件は次回までに、直接赴いて下調べをしておくということになりました)



百周年記念会館(仮称)の建設候補地(南校地)を視察するワーキング委員。

事務局より

年会費の値上げにご理解とご協力を

本校も西暦二千年には目出度く創立百周年を迎えることとなり、学校・同窓会・PTAの三者による記念事業実行委員会設立に向け、同窓会としましても事業にとりかかるべく副会長を委員とする左記のような専門部会を設け、基本構想を練るべく作業を開始しました。

◎募金部会
藤原佐一郎、石井 敏夫
千葉 哲雄、佐藤 裕
◎総務・名簿部会
石井 敏夫、高橋 正道
松永 行康、田中 光彦
◎広報部会
菅野英之進、高橋 正道
松永 行康、大友 一郎
さらには本来の活動の充実を目標に八年度の事業計画並びにそれに伴う予算編成方針については、会費の千円値上げを含めて以下の項目に対し六月の常任委員会、七月の総会において趣旨を理解していただき承認を得ました。

◎本会の活動の活性化と会員への還元のための予算措置
（会員名簿の充実化と全卒業生への会報発送、並びに各支部との連絡強化）
◎事務局強化のための専従事務局員の配置（パート職員）
◎母校への援助、補助強化のための予算措置
（教科指導費等）
◎百周年記念事業先取りのための予算措置
（六年度から実施、百周年基金他）
以上の事業を遂行するにあたり、年会費を八年度から千円値上げさせていただくことができますと、前年度比で三百万円増の予算を組むことが可能になり、創立百周年に向け積立金の確保、会報発送費等の増加に対応できるようになると思われまます。
以上の趣旨をご理解のうえ値上げにご賛同いただき、ご協力をお願い申し上げます。
なお、八年度以降の会費を既にお納めいただいております方々は次の年度から三千円の会費をご協力願えれば有り難く存じます。



ご挨拶

仙台第二高等学校同窓会会長

堀田 康 哉

土用波の到来と共に漸く猛暑収まり、今、残暑を迎えようとしております。

いつもは夏場の名物、真昼間、泉山頂から流れるあの何とも長閑かどうつろな、そして間抜けした「郭公」の囁りと、深夜、青葉山から聞こえてくるあの物憂げで悲しげな「杜鵑」の声を聞くこともなく、只管海の彼方で奏でる空虚な空騒ぎに耳を傾け、「Know How」不在のまま「宝くじ」に外れたのはまた一味違った違和感に取りつかれているところです。

ところで同窓会諸兄各位には相変わらずお元気にお過ごしのことと拝察、ここで恒例とは申せ以下逐次いつもの「Report style」で母校の現況をご報告申し上げます。

「母校概覧」レポート①

◆職員人事ごと

同窓会副会長：松永行康（高5回）ご就任、三浦哲郎（高5回）逝去による（敬称略）
職員：今春職員異動欄参照

◆文 これは要するに勉学のこの学生諸君が校訓文武一道（三船久蔵 柔道師範 中三回）を枕詞に概ねその充実した高校生活を送っている姿は何より大きな収穫であると思う。その定着度と成果に関しては「Media」等を通じて既に皆様ご存知のはず。問題はより今後

の維持対応が「Point」だと思ふ。ご苦勞なことだが右顧左眊することなく頑張って貰いたい。

◆武

これは要するに部活のこと。各部は各々それなりに納得の行く素晴らしい成績を挙げているようだ。特に本年は、

①ヨット部……地区優勝、山梨高校総体参加

②硬式テニス部……引き続き山梨高校総体参加

③水泳部……引き続き山梨高校総体参加

④新装「五十m Pool」を

活用せよ、おめでとう。その実績「Badm」等は木口倉之助校長のご挨拶に譲る。

◆◇◇

「母校概覧」レポート②

◆同窓会総会と懇親会（庶務報告通り）

西澤東北大総長、浅野県知事のご祝辞ご挨拶は、公式行事とはこれまた一味違った「at home mood」。総

長様は「大学の使命と今後の対応」について縷々述べられ、また知事は焦眉の急である「行政のあり方」について各々述べられたが、ご両人共々大きな問題を抱

えて全くと苦勞なことだと思ふ。

どうやら火事場の後片付けに終始し、なかなか本来の専門職である厚生福祉行政に専念できないのは残念

至極、一日も早い軌道修正できますよう心から願って止まぬ。

「先は長いぞ、兎に角頑張れ！」

ところで今回の総会には地元は勿論、特に遠いところからも各支部、各地域の代表のご参加が目立ち錦上

花を添えて頂きましたことは、誠に有難き幸せ。次に

ご芳名をご紹介致しておきましょう。

東京支部 佐藤 隆輔（高5）

福島支部 益田 芳幸（高3）

岩手支部 氏家 和国（中44）

北海道支部 新妻 正光（高15）

青森支部 生駒日出夫（中37）

宮城地区巨理 山田 芳廣（高9）

宮城地区岩沼 芳賀 盛（高18）

宮城地区塩釜

梅津 英彦（中44）

◆「狭小」

言わずと知れた「Ground」のこと、小生も時あることに学生諸君の部活動の実態把握に心がけ、その時間帯に合わせ学校訪問を繰り返してみましたが、何れに致しましても最近の部活動の活発化とその多様化に伴い、ここで何とか始末しなければという大変厳しい現況にあることは間違いないよう

だ。従いまして創立百周年事業と並行して、PTA、奨学会、同窓会はこのに一体となりそろそろその対策への妙案を取り付ける「thinking」にきているのではなからうかと痛感致した次第。とくと賢察の程、ここに重ねてお願い致します。

◆改裝

秋には念願の「五十m International Standard Pool」改裝もいよいよ着手段階に入ることが決定されました。引き続き今年も部員の高校総体参加という実績に照らし更なる活躍を期待したい。兎に角活用して

もらいたい。

◆しゃくなげー報告

昨年五月・二高硬式野球定期戦記念交換植樹が行われたが、その開花を楽しみにスーパードーデーなる「しゃくなげ」が期待に

応えて今年は見事な数輪の花をつけることができた。

今私はこれを「瑞兆」と読み「Brig」校との、今後の友好親善の更なる進展を心から祈念して止まない。

◆◇◇

「母校概覧」レポート③

◆あと、4、

いつも申し上げるとおり、あと四年経過すると間違いなく大きな節目、母校創立百周年を迎えるということなのです。対応する役員人事も既に決定、

「Slow」ではあります但し「Count down」が進行致しております。

◆今百周年記念事業に対応する人的構成について大略ご報告申し上げますが、なんと申しまでも大原則は飽くまで「総会これ総て合議制」ということ。（人的配分関係は事務局より為念）

ワーキンググループ（企

画、立案)↓準備委員会(提案課題の整理、会長会議への提案)↓準備委員会(計画、予算の決定)↓同窓会会長決議(予算、執行、決議)

◆冷房

かねてPTAから、特にご父兄からの切なる要望もあり、教室の一部に冷房を設置することに致しました。これ飽くまで環境整備の一端であり、充実した高校生活に運動出来ればと願っております。

既に平成八年七月二十六日より始動、これ「前倒し」(為念)

◆「コスモス」構想

「コスモス」なる語はギリシャ語で「飾り」とか、「美しい」という意味なそう。メキシコ原産で明治十年頃に渡来したというが、実は木口校長直々のご提案で環境整備の一端として是非実現出来ればと願っているところ。この「コスモス」構想は「Garden-Style」or「Field-Style」になるかは専門家に一切お任せすることになるが、元来「Cosmos」なる語には「宇宙」とか「調整」「秩序」とい

う意味もあり、従って学生諸君の気宇壮大な宇宙科学への挑戦を意味しているのかも知れぬ。「果たして思い通り」か。

◆「Main Project」

創立百周年記念「北陵記念会館」の設立がどうやら「Main Project」になりそう。北陵会館の老朽化に伴い諸事万端いろいろと役員の皆様方にご相談申し上げて参りましたが、今のところその中味は専ら学生の休憩・合宿を主目的とする多目的施設ということになりそうです。ご賢察の程何分よろしく願っています。

◆まとめ

予算執行の「前倒し」、「後倒し」は避けられぬものの、ゆめゆめ「横倒し」などにはならぬよう、常に自戒、専ら融和を旨とし対応していく所存。

何といっても、ここ北陵二高本陣白雲崖での古老「やめいよしの」と新鋭新種「陽光」との競演が、なにより楽しみであり、また目玉でもあります。うめうめ、不変なり

鳴乎!! 青葉の山、広瀬の流れ



校長 木口 倉之助

未来志向を持った人間の育成

本校の永遠の歩みは、本校を学舎とした、その時々生徒が現状に甘んじることなく、多感な年代に相応した活動を通じ、人格の陶冶を図り、自らの将来に向け、自己実現の素地を形成し、常に「更なる前進」のための強靱な、知・徳・体を具現することにある。

百周年を期し、更にグローバルなビッグ北陵生を生み出す素地(環境)を構築・整備し、未来志向を持った有為な人材をより多く輩出する、宮城県仙台第二高等学校でありたい。

そして地球規模において活躍させている先輩諸兄、また率先垂範の意気に燃え、本校の教育活動を通じ、人の道の間たるかを知・徳・体の形成分野から指導にあたり、自己実現の素地を形成し、常に「更なる前進」のための強靱な、知・徳・体を具現することにある。

百周年を期し、更にグローバルなビッグ北陵生を生み出す素地(環境)を構築・整備し、未来志向を持った有為な人材をより多く輩出する、宮城県仙台第二高等学校でありたい。

教育活動にも変容を見ることがであろう。

この精神は本校の創立時から一貫し、今日に至っている。本校の創立百周年は、この精神をもって、二十一世紀から二十二世紀に向けて、有為な人材育成の輝かしい第一歩であると思う。そのためにも日々「温故知新」の心を大切に、未来に向けて、己の志を高く掲げ、その具現に向け、切磋琢磨し、地道な長い活動を求めるのである。そこにこそ様々な可能性が実現し、社会の花が咲き、本来の意味の指導者やエリートの意味があるのである。かく、

二高生を育てることが本校の使命であると考えている。そしてまた本校は、現に学んでいる生徒が、将来二高で学んで良かった、という気持ちの時を経ることに思いを強くし、また、これから続くであろう中学生以下の子供たちが入学したい、憧れの高等学校であり続けることである。その為、物的にも、人的にも、教育活動においても維持発展させることであると思っている。

以上、申し上げたことを基に、生徒達には常日頃、グローバルな視点をもって、その他大勢の一人に埋没しない主体性を堅持し、知・徳・体のバランスのとれた全人的な人間形成に励むことを期待しております。生徒はその期待に応え、教科・特別活動・進路等において努力しております。

青葉山を望み、広瀬川を見はるかす、仙台二高の更なる前進に向け、生徒ともども精進する所存でございますので、ご協力の程お願い申し上げます。

二十一世紀——創造の東北大学——

東北大学総長

中 44 回 卒 西 澤 潤 一

仙台二高同窓会



仙台駅に降り立った人は、すぐ地下に降りてモノレールに乗る。モノレールは新式で音もなく静かに西に向かって走る。四番町、二番町、南町通から、検察庁前を経ると西公園、仲の瀬橋を通過して、早くも東北大学キャンパスの東角に到着する。この間およそ十分。このあたりから青葉山頂上に登りにかかる。騒音の規制のために県立美術館前も

亀岡住宅前もコンクリートで巻かれて地下駅のようになっている。切角の美しい緑を眺めることは出来ない。頂上の駅でエスカレータに乗って地上に出ると、遙か東に太平洋と、西に蔵王・太白山・船形連峰と緑につつまれた研究所・講義室を見る。そして、その森のたたずまいを縫って歩道が次の建物へと我々を導いてくれる。ゆっくりと楽しみながら

大学備品の自転車車を漕いでゆく学生が挨拶してゆく。

大抵の人はエスカレータの途中から地下道を廻っている。簡単なトロロッコに乗って別のビルに急ぐ。これはまた、銀行からの借入金によって作られ、利用者が利子を支払う方式の地下駐車場から地下自動車道路を抜けてゆくから、地上には作業車以外は見当らない。

中央には、創造の大学を象徴する高い建物が只一つだけ建ち、これを巡って中央ビロティ広場があって、学生のサークル部室や生協売店、コーヒースョップなどが取りかこみ、休講の学生は、このあたりに集って日向ボッコをする者、図書館で本を読む者、喫茶室でコーヒをのみながら静かに考える者、早々と昼食をとるものといろいろだが、時々

モノレールに乗って上って来た二高生が仲間入りして先輩と語り合っているのも見られる。午後学生は実験で忙しいが、これが終わった学生は、早速モノレールに乗って山を下って、二高に隣接したグラウンドで夕闇の迫って来たのに気がつくまで体育に熱中している。

学生は、エスカレータで上って来た地下道に次いで設けられているロッカールームで着替えをし靴を持って寮に帰る者、下宿に帰る者、さまざまで、大学センターでは夕食をとるところもあり、そのまま研究室に戻って夜おそくまで実験や読書をつづける学生も居る。

仙台市との話し合いで、川内グラウンドに建物を移築して、昔、ベーブブルースがホームランを打った八木山グラウンドに学生スポーツセンターを移す話も進んでいる。

学生は、真中の広場を中心に講義も聞け、研究をするようになると、少々広場の外に移って専門の講義も聞く。更に進めば、外周の研究群が円周状に連なるあたりに移ってゆくが、近い研究をやっているグループ自体は割に近い



ところに居るし、ところどころにはボードや椅子があつてあちこちで熱心な討論をしている者が居る。書いたものは百円玉を入れたと、そのままコピーされて持ち帰ることが出来る。時々ヒソソリと何か別のことを話しているらしい若いカップルもある。

こんなところで論文が必要となれば鉛を押して電子図書館から論文を拡大し、見せてもらって議論をつづけることも出来る。かと思うと油だらけになって新考案の機械を一所懸命作っている学生も居る。深夜、孤燈の下に燃灯す学生も居れば、赤提灯で大きく光っているのも昔と同じである。(フィクションも含まれています)

宮城県——二十一世紀の豊かさ——

宮城県知事

高18回卒

浅野史郎



二十一世紀の宮城県はどのようなになっているだろうか。宮城県に限らないが、豊かさというものの質が変わりつつある。食えないような貧しさからは、とうの昔に抜け出した我が日本である。新しい形の豊かさを求めてそれぞれの地域が走り出している。

今までの歴史において、豊かさとか発展とか進歩の定義

は、我々宮城県人が決めたというよりは、外から「こうですよ」と決めてもらっていたのかもしれない。東北は常にその他の地域から取り残され、「遅れている」という感覚が身についている。「追い付き、追い越せ」の精神構造である。二十一世紀の宮城県、もうそういう行動様式はやめようじゃないか。食えない時代じゃないか。

いの中から、発展の方向とか、進歩の目標は自分で決める、そう決めるところから始めるべきであろう。

成長することが常に求められる、大きいことはいいいことだ、より速く、より多く、すべてこれ企業社会の論理である。これが発展と同義語で使われてきた二十世紀。そうじゃなく、ゆとり、個性、多様性、そういったものを抱えていける地域というのが、二十一世紀の豊かさを体現できるところである。宮城県全体がそういう地域を目指してもいいではないか。

知事として、「ふるさと懇談会」という企画で、年間七か所ずつ県内の町村を回っている。行けばまる一日、その町に滞在して座談会、懇談会を五回ぐらい持つ。たくさんの方々と直接お話しをするこ

とができる。そんな機会を通じて感じることは、地域に人材はいるということである。ぼつんぼつんというそういう人材のネットワークを作り、さらに人材を発掘し、育て上げていけば、相当のパワーになりそうである。

宮城県内の各地域にあらもない、これもないということを書いて募ることはもうやめてもいい。あれがある、これがある、ないもの探しからあるもの探しへ、そういう姿勢を早く定着すべきであろう。その地域に特有の何か、他に真似できない何か、そういったスペシャルなものをみつけ、育てる。それが地域の誇りにつながるはずである。

首都機能移転の話は宮城県にとっては絶好の機会である。これを機に発展のおこぼれを、というのでは国家的プロジェクトとはなり得ない。十四兆円もかけてのプロジェクトなのだから、ここで新しい価値を示すようなものでなければならぬ。新しい都市づくりでもある。そういったヴィジョンを宮城県自らが提示することができたなら、首都機能は宮城県南部に来る可能性は高



くなる。仮にそうではなくとも、宮城県が新しい豊かさの内容を内外に示すことの意義はとても大きい。

自然環境に恵まれ、都市機能と田園とがほどよく混じり合っているのが宮城県。長い歴史と伝統を持ち、一方において国際化への歩みも着実に進んでいる。「風土」という点ではユニークな、外にアピールできる可能性を大いに秘めている。人真似ではない、追いつき追い越せの発想ではない、そういった宮城県独自の豊かさへの道筋を、今こそ確立しなければならない。

仙台中・二高

在学・在職中の思い出(上)

高 4 回卒 旧職員

佐々木 武 夫



私には、母校に関して在学六年、在職十四年計二十年間の尽きせぬ思い出があります。入学したのは昭和二十一年四月、卒業したのが二十七年三月でした。第二次大戦直後の、国の内外ともに激動の時期でした。旧学校教育制度(以下旧制)においては、義務教育年限が小学校の六年間、中学に進むには現行の高校入試のような関門がありました。中学は五年までありまして最上級生の五年生は今の高校二年生に当たります。一年生か

高校時代三年、三年の六年間を同じ学び舎に通うことになったのであります。私も旧制中学の最後

の学年でしたので、新制中学から一つ年下の人達が進学してくるまで、つまり私も新制高校二年生になるまでの丸四年間というものは下級生なしの末っ子でありました。まあ、それだけに中・高時代の上級生の方々に対しては、ひとしお敬愛と親しみの情を抱いておったと思われます。ところで、中学に入ってから、応援団が結成されましたが、この時は全く度胆を抜かれまして、二中と一中は創立以来強いライバル意識を持って勉強・運動は勿論万事にわたって競い合い、切磋琢磨し合っていました。その年の五月二十日、平和復興復活第一回対一中野球戦があり、それに向けて応援団の結成が必要だったのです。朝礼の後でしたか、先生方が控所(小体育館)から見えなくなるや、五年生の猛者達が在校生の周囲を取り囲むような位置を占め、

「その場に皆腰下ろせ。まなぐをひぐれ。」との怒号。初めのうち何のことかわからず一同、がががやしなが腰を下ろしたとたん、再び猛者連の声、いやいや、それは人の声というものではなく、猛獣の叫びか雷鳴の音かとさえ思われました。「なあんだあ。今のすわりがだあ。口とずねでできねえのがあ。」「どこの馬の骨だあ。ばがもーん。」高下駄で床板を猛者達が踏み鳴らす音は、目を閉じて正座をしている私どもにとっては爆弾の破裂音にも感じられました。恐る恐る細目を開けて窺うと、前方の中央部に今はやりの言葉で言えば超弊衣破帽のいでたちで、いかにも威厳のある英俊豪傑が腕組みをして立っております。一番のボスらしい。その左右にひどく汚れた手拭いなんぞを腰に下げた陣笠連が凄味をきかして睨んでいます。「そこでにやけでいるの、だれだあ。」「まんながあたりのやぶう。ぎょろっとした眼をあけて、貴様入れ目玉があ。」等々四方八方から鳴り物入りの罵声・怒号の渦中に置かれました。当時わずかに十三

歳の純真純情な私どもが皆度胆を抜かれたのも当然でした。こうして下級生全員のマインドコントロールをし終えた猛者連は厳かに応援団の結成を宣言、定期戦までの日程を説明、団長、副団長、幹部におさまったのであります。リーダーの立場からすれば、数多くの応援歌に加えて凱歌も教えなければならぬ。戦時中は学徒動員の毎日であり、スポーツ大会なども中止の状態、応援歌・凱歌など斉唱する機会も少なかったでしょう。それを短期間に全校生徒が歌詞を覚え、腹の底から高唱出来るようにもってゆくには大変な負担があったと思われる。リーダーの異常なまでの気迫と情熱に包まれながら私どもは昼休みと言わず放課後と言わず応援練習に加わり、いつも声を嘶らしておりました。音楽の時間などは声が出ず、授業になりませんでした。肝心の復活定期戦第一戦は、我が校が32対27で快勝、校歌・凱歌を高唱した後、皆大感激の裡に夜道を帰途に就きました。

ところで卒業後、十数年経てのこと、混雑しているデパー

トの中で、可愛いベビーを抱えた甚だ美形の貴婦人の後に、大きな買物包みを重ね持ち、汗を流しながら懸命に従いゆく見覚えのある紳士、彼こそ比類なき蜜声と鬨魂で鳴らした、リーダーの一人であったことを思い出し、ひそかに我が口元の緩むのを禁じ得ませんでした。

入学当初、校舎の窓ガラスはかなり破れ、板でふさいで雨風の入るのを防いでおりました。鉄の窓枠は錆び付いて開閉の際、力が要りました。校庭は戦時中、鼠や防空壕に利用されたのでかなり凹凸があり、整地は大変だったと思われまふ。降雨や降雪のあったときなど水溜まりや斑消えに鼠の敵のあとがうかがわれました。

昭和二十五年四月、創立五十周年記念事業の一つであった校舎復旧工事がめでたく竣工しました。校舎の色は暗い灰色から明るく、温かい感じのするクリーム色に塗り替えられました。この塗り替えは単に私どもの気分を一新したばかりでなく、学校の、更に大きく言えば祖国の力強い復興と発展を象徴するものと思

えて、私どもの意を強くしたものでありました。ただ残念なことに、戦災によって生じた雨漏りを防ぐために屋上が閉鎖され、これに屋根がかけられてしまいました。経ヶ峰・大年寺・青葉山・亀岡と続く山並み、広瀬川に架かる大橋・仲ノ瀬・瀬橋、尚絅学院や旧師団長官舎とその木立など四季を通じての佳景観賞、憩いの場でありましたのに。

進駐軍（戦後、わが国をアメリカの軍政下に置くために進駐してきた軍隊）が仙台の川内地区にも入ってきまして、様相は一変しました。かつて日本軍関係の施設が林立しておりましたが、仙台大空襲で全くの瓦礫の山、文字通り廃墟となっていました。そこにブルトーザーが何台も動きだし、あつと言つ間に色彩豊かに縁取りされた白ペンキ塗りの建物は何百、何十棟も実には整然と建ち並んだのであります。まるでお伽の国か、箱庭を見る思いでした。当時、電力事情がさぶる悪く、日中は勿論、夜間にも停電が頻繁に行われ、試験勉強の時などはローソクの灯に頼らねばならぬことがよくありました。

しかし、進駐軍の施設があるこの川内地区だけは別世界でした。昔、市電が走っていたが、大気の清澄な冬の夜、西公園あたりを通過する市電の車窓から川内地区を眺めた時などこの地区一帯だけは、どの建物にも煌々と電灯が輝き、大きな不夜城を形成しておりました。戦争の勝者と敗者との差をこうした面からも痛感させられました。

母校正門の、道路を隔てた向かい側には、五十米、二十米ほど（正確にはヤード寸法による設計施工）の二つのプールとアメリカ軍将校のクラブハウスが設けられました。夏ともなれば、プールサイドには赤や黄や緑など色彩豊かなバラソルの花のもと、水着姿の金髪で白肌の婦人が談笑している姿や飛び込み台に立った毛むくじゃらで肩幅の広い巨漢の豪快なダイビングの様も望みられました。南校舎窓際の生徒には有毒の眺めでした。

学校のものにならないものかなあという夢を描いたのは。昭和二十七年四月、日米平和条約が発効し、進駐軍も駐留軍と名が変わり規模が縮小され、川内地区からは全面撤退するとの声が聞かれた頃でした。正門向かいの土地を二高の南校地にという夢が現実の強い願いとなりました。同窓会・父母教師会・学校が一体となって、この至難の夢の実現に立ち向かいました。この夢の実現したのは、私どもが卒業して七年後の昭和三十四年でした。私の初任校の校長・教頭が同窓の先輩で、他に二、四名の同窓生もおりまして、職場の同窓職員一同が応分の寄付をもつて協賛できたことを覚えております。

この大願成就は、衝に当たられた方々の筆舌に尽くしがたい母校愛と御苦労の賜物と思えます。それに時の流れが味方したものだと思えます。只今は正門向かいの広い敷地が母校

の所有地となり、テニスコートや五十米公認プール、屋外バレーコートや体育館等が設けられ、北陵健児の体育振興拠点の一つとなっておるのがあります。



受章・叙勲のおよろこび

叙勲記念品をいただいて

中 39 回卒 瀬 戸 邦 夫

平成八年（一九九六）七月六日の同窓会総会後の懇親会の席で叙勲祝という事で堀田会長から記念品を頂戴した。

有難いことであった。同窓の遠藤慎治氏、井ヶ田徳治氏も記念品を頂かれた。遠方居住の同窓生にも多数叙勲者が居た。



キュリー夫人の業績にあらがれて放射能の研究をやるようになった。敗戦直後の暗黒時代を回顧すると今日の原子力全盛時代は夢のようである。原子力は大エネルギー源であるが、利用の道は頗る多い。しかし原子力利用は結局地球の環境放射能レベルを高くして放射線障害を将来するおそれなしとしない。原子力利用にあたってはこのことに特に留意してほしいと思っている。

叙勲の栄に浴して

中 41 回卒 遠 藤 慎 治

広瀬川の清流、融雪を得て瀬音高く、驚異山文殊堂の新緑に倉庚の音を聞く頃、諸縁に因り生存者叙勲の栄に浴し、

五月九日通産省本館に於いて伝達式があり勲四等旭日小綬章を拝受し、翌十日には皇居春秋の間に於いて天皇陛下に拝謁すると云う光栄に浴しました。真に身に余る栄譽であり、嘗ての上司や同僚並びに諸先輩知友の方々の御支援に



対し改めて厚く御礼を申し上げます。次第であります。

齢古稀を過ぎ人生の黄昏に差しかかってみますと、落祖政宗公が物された「残軀天所赦 不樂是如何」の句に共感

大変多くの方々そして

父母上へのお礼のことば

中 42 回卒 井 ヶ 田 徳 治

此の度は、はからずも勲五等双光旭日章を頂戴するという光栄に浴し感謝感激致しております。これひとえに「ぶらんどーむ一番町・一番街商店街」の皆様初め大変多くの方々

のご支援の賜物と胸中深く刻みつけております。

顧みますと私は大正十三年、父と母の有難い遺伝子を生れしました。私は、私の生れる四年前に裸一貫で仙台に独立、開店した父と母が作っ



てくれた温室に入り、それ以来これに入りっぱなしで、その上父と母の七光に照らされ続け、今日に至っております。この温室と七光は、昭和の大不景気、戦争、戦災、終戦、インフレなどの大波にもつい

を覚え乍らも、叙勲の重味に思いを至すとき、佐藤一齋の言志晩録に云う「老而学、則死而不朽」を而不悔と読み替え、一層の精進に努め智の灯を揺立てて己の道を歩み、加速する現代社会の一隅を照らして参りたいとも考えて居りますので、これまでにも増して御交誼を賜わり度くお願い申し上げます。



このたびは種苗業界の近代化に寄与したこと、ならびに野菜の育種その他で社会に貢献したことの功績により藍綬褒章を受章する栄誉に浴しました。およそ四十年間に亘る活動の成果を評価していただいたことは有難いことです。

藍綬褒章を受章して

高6回卒 渡辺 穎悦

育種という仕事は人類の福祉に役立つ生物を育成することを目的としています。対象が何であるかによって必要年数や手法、効率などが大きく異なることは申すまでもありません。野菜の育種では通常一世代一年の作物を基準にすると固定品種で約十年、ハイブリッド品種で十五年ほどかかりますので一人で育成できる数には限りがあります。その点今日まで研究員の協力を得て玉石混交ながら百余の品種を発表できたことは幸運といわなければなりません。

えることなく、今でも残っております。
この間中には数限りなく沢山の方々のご指導・ご鞭撻の下、導かれて参りました。私は生れてから七十一年間、これといった事をしたとは思っておりません。にも拘らず叙勲という晴がましい事になってしまい、心底から戸惑っております。

これからは皆様の相変らぬお引立を頂きながら、なお一層の精進を致す覚悟でございますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。
私は現在「空」を舞っている気分です。
私は、自分をしあわせ者だと思っております。本当に有難うございました。

◆受章・叙勲◆

▲平成八年度春の叙勲▼

・勲三等旭日中綬章

瀬戸 邦夫 (中39回卒)

・勲四等旭日小綬章

遠藤 慎治 (中41回卒)

・勲五等双光旭日章

井ヶ田 徳治 (中42回卒)

・藍綬褒章

渡辺 穎悦 (高6回卒)

▲平成七年度秋の叙勲▼

・勲三等瑞宝章

増本 剛 (中42回卒)

▲平成八年一月十二日付▼

・正四位、勲三等旭日中綬章

中島 威 (中40回卒)

★受章・叙勲は事務局判明分です。

ません。

最近世界の人口と食糧の問題が頻繁に論じられるようになり、勢い環境修復とか持続的農業の確立、健全な食材の供給などが重要な課題と目されるようになってきました。こうした問題の解決にはバイオテクなど先端技術に期待され

▲日本学士院新会員▼

武内 義範 (中30回卒)

西澤 潤一 (中44回卒)

平成七年十二月十二日の総会で学士院の新会員に選ばれました。

武内先生は第一部「人文科学」。宗教哲学に新境地を開いた功績です。

西澤先生は第二部「自然科学」。半導体電子工学の発展と光通信の誕生の功績です。

今年の西澤奨学生には、金子 陽平 (工学部) 四戸 大希 (工学部) 伊藤 広通 (医学部) の三名の東北大学合格者が選ばれました。

るところも少なくありませんが、現場では従来にも増して環境保全型技術の一つ一つの積み上げが不可欠といわれております。今後も受章に恥じないよう育種を通して社会のニーズに応えられるよう努力したいと思っております。

新副会長

就任の弁

高5回卒

松永 行康



前任者、三浦哲郎君の急逝により、この度、同期五三の会諸兄のおだてに乗って、彼が生前担当していた同窓会副会長の任を引き継ぐこととなりました。よろしくお願い申し上げます。

同窓の集まりというものは、歳と共に郷愁を覚えるものなのか。同じ環境で遊び、遊び、そしてげんだ先輩後輩の方々と知り合い、語り合い、酒を飲み交わし、歌など唄う、何にかえがたい財産だと思ふ。無論仕事の上でも何かと役に立つ。
若い卒業生諸兄に音信不通の回卒が多いと聞く。大切な

財産をみすみす捨てるのはもったいない。

西暦二〇〇〇年仙台二高創

計 報

(事務局判明分)

熊谷 三郎 (中24回卒)	鈴木 和郎 (中37回卒)
鈴木 恵郎 (中26回卒)	大石 富彦 (中38回卒)
千葉 武雄 (中26回卒)	工藤福治朗 (中38回卒)
熊谷 泰典 (中27回卒)	二関 隆美 (中39回卒)
秋山 信幾 (中30回卒)	原田 充 (中39回卒)
加藤鶴一郎 (中30回卒)	高橋 昌福 (中40回卒)
西條清左衛門 (中30回卒)	中島 威 (中40回卒)
佐藤 俊 (中30回卒)	坂山 省一 (中40回卒)
志賀 正臣 (中30回卒)	横田 陽吉 (中42回卒)
遠藤 重次 (中31回卒)	菊池 亮 (中43回卒)
大野 敏夫 (中31回卒)	千石 利雄 (中43回卒)
芳賀 正男 (中31回卒)	菊池 明彦 (中44回卒)
細谷 哲郎 (中31回卒)	洞口 玲光 (中42回卒)
山田 英夫 (中31回卒)	菅原 利次 (中33回卒)
大井 清弥 (中32回卒)	吉崎 和雄 (中33回卒)
菅 雄吉 (中32回卒)	揚妻 武夫 (中44回卒)
波谷 五郎 (中32回卒)	安代 磐郎 (中44回卒)
多田 善夫 (中32回卒)	佐藤 仁也 (中45回卒)
松山 武夫 (中32回卒)	三浦 哲郎 (中45回卒)
武藤 正一 (中32回卒)	高橋 良基 (中46回卒)
小野 肇 (中33回卒)	荒井 則清 (中46回卒)
小出 正五 (中33回卒)	岡崎 功 (中47回卒)
菅野 松男 (中33回卒)	藤村 知 (中47回卒)
石垣 清治 (中34回卒)	永井 雅 (中48回卒)
石母田 豪 (中34回卒)	佐藤 和雄 (中48回卒)
児玉 宗俊 (中34回卒)	中野 光政 (中48回卒)
竹内 正光 (中34回卒)	武田 信幸 (中48回卒)
大川 光亀 (中35回卒)	佐々木 威 (中48回卒)
小宮 曠三 (中35回卒)	松田 裕弘 (中48回卒)
高田 一雄 (中35回卒)	三浦 章弘 (中48回卒)
伊東平八郎 (中35回卒)	北村 亮 (中47回卒)
金沢直太郎 (中36回卒)	
武井 尚文 (中36回卒)	
千葉 竜 (中36回卒)	
池田 清一 (中37回卒)	

立百周年に向かって、卒業生一同力を合せて協力しようではないか。

鈴木 和郎 (中37回卒)	大石 富彦 (中38回卒)	工藤福治朗 (中38回卒)	二関 隆美 (中39回卒)	原田 充 (中39回卒)	高橋 昌福 (中40回卒)	中島 威 (中40回卒)	坂山 省一 (中40回卒)	横田 陽吉 (中42回卒)	菊池 亮 (中43回卒)	千石 利雄 (中43回卒)	菊池 明彦 (中44回卒)	洞口 玲光 (中42回卒)	菅原 利次 (中33回卒)	吉崎 和雄 (中33回卒)	揚妻 武夫 (中44回卒)	安代 磐郎 (中44回卒)	佐藤 仁也 (中45回卒)	三浦 哲郎 (中45回卒)	高橋 良基 (中46回卒)	荒井 則清 (中46回卒)	岡崎 功 (中47回卒)	藤村 知 (中47回卒)	永井 雅 (中48回卒)	佐藤 和雄 (中48回卒)	中野 光政 (中48回卒)	武田 信幸 (中48回卒)	佐々木 威 (中48回卒)	松田 裕弘 (中48回卒)	三浦 章弘 (中48回卒)	北村 亮 (中47回卒)
---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	--------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------

第二十八号に「中36回 新開 勝衛」さんのお名前を計報欄に掲載致しましたが、誤りでした。慎んで訂正致しますとともに深くお詫言申し上げます。

支部北陵会だより

北海道支部便り

中43回卒 若生 幸一郎

北海道支部のスタートは、昭和五十五年夏、猪狩道夫氏(高6回)からの電話「今度仙台二高在道同窓会を作りたいので協力して欲しい」との第一報が私の記憶です。

職場も近く、大変嬉しい話だったので、早速お会いしたところ、大分前から準備されていて、既に二百名近い在道卒業生の名簿を集めておられたのにびっくりしました。



発足世話人として、沼田 俊一(中23回)、佐々木 一郎(中29回)、千葉 正止(中33回)、島津誠二(中42回)、関光 策(高9回)、山本有吾(高12回)、新妻 正光(高15回)の諸氏が努力されました。初代会長に沼田氏、その後佐々木・千葉の両氏が夫々

会長をされました。翌年一月ホテルアルファ・サッポロで開かれた最初の集りは、なんと名簿会員数一八二名の半数を越す多勢の出席となり、庄子清右衛門氏(高2回)が大関酒造勤務のこともあり、豊富な飲み物とその絶妙な名司会で盛り上がった総会は、いまでも折にふれ話題になっています。

一年後、あの大きな校章の付いた旧校舎正面写真表紙にした立派な名簿もでき、昭和五十七年一月二十二日、参加者四十八名で第二回目の総会が持たれ、それから毎年、年一回の総会と、喉が渇いた時の臨時飲み会などを開きながら、ここまで来ました。

今年も夏の高校野球が、憧れの甲子園で熱戦を繰り広げられました。我が母校が出場した大正十四年、昭和二十二年、昭和三十一年の三回のうち、特に準決勝まで勝ち進み、新聞に「左の小さな大投手」と称えられた昭和二十二年高校野球のヒーロー二階堂正氏(高2回)が平成元年、サッポロビール札幌勤務となり、昨年仙台に戻られるまで、野球同様、支部の強力なメンバー

岩手北陵会だより

中 44 回卒 氏 家 和 国

として、そして宮城県人会で大変な活躍をされました。そこで「花見をしながら二階堂正さんを送る会」が、昨年三月二十六日同氏が担当されていたサッポロフアクトリーで、今、度々マスコミに登場、人気のある特別ゲスト佐藤道夫氏（元札幌高検々事正・現参議院議員・仙合一高卒）夫妻を含む男性十三名、女性九名?! 計二十二名の参加で開かれ、しばし時の経つのを忘れさせる賑やかなお別れ会となりました。

今年の総会は、近く開催の予定ですが、平成七年度総会は、九月二日京王プラザホテル札幌で、十四名の出席で阿刀田光昭氏（高 14 回）の「蛙の生態」と題する孵化から行政面までの興味深いお話しを聞きながら、和やかに行われました。

また役員改選で、会長は山田貞夫氏（中 33 回）から若生にバトンタッチ、副会長に鎌田勝夫（高 10 回）、幹事に新妻正光（高 15 回）、加藤憲和（高 18 回）、会計幹事我妻邦雄（高 13 回）、事務局上田俊朗（高 15 回）の諸氏が選ばれました。

「光陰矢の如し」の言葉どおり、あっという間に一年が過ぎ、本年も去る一月二十七日の第四土曜日、盛岡駅構内のホテルメトロポリタンに於いて、十五回目の岩手北陵会を開催しました。

今年も、木口倉之助校長、堀田康哉会長、石井敏夫副会長、横山文彦校内幹事の四氏にお出でいただきました。

会に先立ち、昨年度亡くなられた佐藤存蔵（中 23 回）、中屋重綱殿（中 29 回）、米沢秀雄殿（中 36 回）の御三方に黙禱をささげ、御冥福をお祈りいたしました。

総会は、校歌斉唱の後、会の直前急に会長に推挙された小生が就任の挨拶を申し上げ、ご来賓の先生方からお話を伺いました。

校長先生は、文武両道にはげみ、着々と成果をあげている母校の現状を話され、更に、校内には百四十三種の樹木があり、桜の木だけでも百五十本を算え、春は桜、秋はも

回の集いも、終始和やかな雰囲気、またたく間に終りとなりました。

本部の先生方には、毎年お忙しいところお出でいただいておりますが、今年は地震で電車の運行が大幅に乱れたにもかかわらず、時間通りにお出でいただき、会員一同感謝しております。

この会発足以来、長い間会長として我々会員一同をひっぱってきてくださいました、石井富士雄氏が、会長を退かれ、今後は顧問として相談にのってくださいることになりました。その後釜として、暫くの間小生がつとめることになりました。ご支援の程宜しくお願い致します。母校の栄を祈りつつ、今年の岩手北陵会だよりいたします。

塩釜北陵会便り

高 17 回卒

中 村 賢 一

塩釜の二中、二高同窓会は、昭和三十年代有志による内輪の集まりとして行われていたのが、昭和四十年代に入って市内の佐々木眼科の佐々木統一郎氏が中心になって、市内

在住の大学生にも声を掛けられ大勢集まるようになり同窓会の形で開催されるようになりました。当時塩釜は、桜井市長の時代から川瀬市長の時代へと続いてゆくのですが、

現在、会員は百三十五名で、出席された方は次の方々とございます。

佐藤敏（中 24 回）、石井富士雄氏（中 37 回）、氏家和国家（中 44 回）、白石景秀（中 46 回）、渥美進（中 47 回）、及川正城（高 1 回）、佐藤秀雄（高 1 回）、小野仁（高 3 回）、柴田三郎（高 3 回）、村守英男（高 4 回）、鈴木恒男（高 5 回）、及川忠昭（高 6 回）、宮沢雄造（高 6 回）、小林秀樹（高 11 回）、田山典男（高 14 回）、千葉知（高 19 回）、千田昭一（高 22 回）、佐々木宏（高 23 回）、橋浦礼二郎（高 23 回）の諸氏。

なお、斎藤量人氏（中 27 回）は地震のため、仙台駅で足どめされ、残念ながら出席できませんでした。

両氏とも二中、二高の先輩であり、故愛知揆一氏も、参加された記憶があります。名称も塩釜北陵会とし、初代会長に佐々木統一郎氏がつかれました。途中佐々木先生の逝去による中断がありました。塩釜信用金庫の専務だった故桜井正氏が同窓会再開を呼びかけられ、鈴木四朗氏、千葉博氏、梅津英彦氏と代々会長になっていただき今に至っております。平成六年よりは、年会費を徴収し二年に一回会

〔平成八年秋の話題〕

阿部博之氏（高七回） 東北大学の新総長に選出

西澤潤一総長の任期満了に伴う東北大学の総長選挙が九月二十五日に行われ、仙台二高七回卒の阿部博之前工学部長が、第十八代の新総長に選出された。任期は四年。

阿部氏は専門が地熱工学・材料力学で、高温岩体発電の権威者として有名。日本機械学会賞を三度受賞している。「未来に向け、社会に提言していく大学の実現を目指したい。青葉山へのキャンパス移転を実現したい」と抱負を述べている。（河北新報より）

員名簿を配布できるよう努力しております。今では塩釜のみでなく多賀城、七ヶ浜、利府、松島等近隣の同窓の皆様にも可能な限り連絡をとり参加を呼びかけております。総会には四十名前後が参加し老若入り交じって楽しい一刻を過ごしております。事務局としても単に同窓会としてだけでなく、一種の異業種交流のような役割を担って、少しでも地域の発展に役立っていたければと思っております。

仙台二高 三十五年振りの 秋季東北大会出場を果たす

第四十九回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会が、去る九月十九日から二十六の代表校が集まって開催された。仙台二高野球部は、

一回戦 三二二 仙台商業
二回戦 二一一 米谷工業
三回戦 一〇〇 東 陵
と勝ち進み、四回戦の準決勝で仙台高校と対戦して〇一二と惜敗したが、第三代表決定戦で、利府を六一で破り、三十五年振りの東北大会進出を決めた。十月十日の一回戦の相手は青森第三代表の青森山田である。（於宮城球場）

同期会だより

ごさん

堀見先生と五三会

中 34 回卒 佐藤 茂

五三会とは昭和九年三月卒業の五年三組に在籍したメンバーのクラス会のことである。卒業時の担任が堀見宗男先生だったので、昭和三十六年に二高を退職されて英語塾を開業された機会に、お祝いと感謝の気持ちも含めてクラスの

有志三十余名が集まり第一回の会合を開いてお祝いをしたのがきっかけで、以来今年まで三十五年間毎年先生をお招きしておめにかかっている。先生は今年九月に満九十六才になられるが、八十八才まで現役で活躍され、数多くの子弟を育てられたご立派と



績はまことに立派なご立派と。現在には悠々自適のご様子であるが毎日のウォーキングは欠かさずに続けておられるそうである。古武士のような先生をお手本として長生し余生を楽しみながら少しでも社会のお役に立ちたいものと考えている。

写真は四年前の先生九十二才の誕生日の五三会の面々である。日本は且つて世界を相手に闘い、矢折れ力尽きて敗れた。戦勝国は日本を占領し、再び脅威とならぬよう総ての分野に対し、制限統制を行った。為に戦没者の美化は禁じられ、歴史すら書き変えられた。私達、中四十回生は、早くは一・二年よりまた四・五年の中途で国の要望に応じ軍へ入った。昭和十五年正月、先に軍の学校に進んだ者と、今年卒業する者が應援団長だった異君を囲んで校歌を共にして別れた。そして四十余名の有志の若人が、戦野に斃れ、特攻として散花し、また南方密林の中、シベリヤ凍土の果てに病となり、再び故郷の山河を見ることが出来なかった。東北大学医学部の前庭に、戦死した卒業生の名を刻んだ慰霊碑があり、訪れる人が花を捧げている。英米等の学校でも戦死した出身者の碑や像が

祖国の為、
斃れて帰へらぬ
友を想う

中 40 回卒

佐久間 博 信



ある処が多い。

その昔、ローマに迫ったハ
ンニバル將軍のカルタゴ國は、
その後、戦に敗れ軍を失い、
商業國として一時は栄えたが、
遂にはローマ軍に民族総て滅
ぼされた。民族精神を失い、
安逸に流れた結果である。日
本の前途、果たして如何。漸
く戦後五十年が過ぎ、占領國
の連鎖は消え、日本自らの道
を選択し、独立平和の道を歩
める。

私は思う、二高の校庭の端
にでも、國に殉じた同窓生の
碑を建て、後に続く人々に彼
等の純なる氣持が伝えられな
いかと。校門を訪れる度に、
あの時、共に歌った親友の面
影を思い出すのである。

清流会五十五回総会と会報「清流」の

復刻版について

中41回卒業 菅井 富

この度、清流会会員遠藤慎
治君には、平成八年五月九日
通産省に於て、永年の通産行
政関係の功により、勲四等旭
日小綬章叙勲の伝達式があり、
翌十日宮中真珠の間で、陛下
に拝謁の榮に浴されました。
本人の喜びは勿論のこと、会
員一同心からお喜び申し上げ
ます。

清流会第五十五回総会は、
四月十九日例年通り仙台ガー
デンパレスで、今年は横澤モ
ト名誉会長をはじめとして、
福島より猪股三郎君ご夫妻が
出席、十五名の出席者で盛會
のうちに和やかに言うことが
出来ました。欠席会員の近
況を見ますと、年とともに身
体の不調で出られない人が多
くなって来ております。これ
に反しまだまだ元気で働いて
おり、仕事の都合で来られな
かった会員もおりました。

清流会発足以来五十五年の
長い月日が経っておりますが、
ご遺族および会員の出席も定
着して来ている様です。来年

プロで、一年近くかかった由
見にくい文字、文章を判読し
てワープロをうつすには、大
変苦労だったことと思います。
この復刻版を顧みて読んでみ
ると、当時の我々血気はやる
若人軍人組の生徒が、この様
な文学青年が書く様な文章を
したためたかと、今更ながら
不思議に思われて来ます。

古龍会近況

中43回卒業 鈴木良也

私達の中四十三回期は、古
龍会と称し、年一回の同期会
を十一月に開いている。平成
七年度は十一月十八日に行わ
れた。

これは第三十四回総会で、
恩師高槻先生をはじめ、四十
二名の参加があり、楽しい時を
過した。

一口に三十四回と言うが、
三十年以上も欠かすことなく
実施して来たことは、会員一
同の誇りと思つてよいだろう。
このように長い間続いていた
のは、平成六年十二月に亡く
なった故塚本栄夫前会長の人
柄によるところが大きいと思
っている。私達はそのあとをう

最近になります、故横澤先
生の「清流」巻頭の辞に「心
棒を持って」の寄稿文がありま
す。昔も今も若人がもつ心構
えと深く感じ入ります。この
文章や外に先生が、国語の先
生として我々に教えていただ
いた数々の文章を、是非二高
同窓会報に記載して貰いたい
と希望しております。

けて、可能な限り同期会を継
続していくつもりである。
母校は十九世紀に開校し、
二十一世紀に向けて、たゆま
ず発展し、幾多の俊英を送り
出して来た。ここ是非言及
したいのは、私達の恩師堀見
宗男先生が、母校と同じ千九
百年誕生で現在もお元気とい
えられることである。先生もき
と十九・二十・二十一世紀に
わたって私達を力強くご指導
下さるであろうことを期待
しつつ、古龍会の近況報告と
する次第である。

第四十五期同期会

中 45 回卒 岩 淵 日出雄

同窓会報第二十七号十二頁に「卒業証書交付を願う」と同期の尾高博彦君の校長先生へお願いに対して、同窓会報第二十八号一頁に「五十年振りの卒業式」として写真入りで大きく掲載されました。第二次世界大戦の最後の年の三月に苦竹



借りまして衷心より厚く御礼を申し上げます。

平成七年は阪神淡路大震災、オウム事件、銀行の問

題、もんじゅ事故など全く暗い一年でしたが、私達にと

っては、卒業証書授与式は全く明るいニュースであり、心に刻んで置きたいと思

っています。

十月二十七日茂庭荘で卒業五十周年記念の会を開き、

恩師 高槻英男先生、鈴木達雄先生、居坂知己先生を

はじめ堀田同窓会長、木口倉之助仙台二高校長先生並

びに今回の卒業証書授与に

関していろいろと御世話に

いただきました仙台二高の高

橋清治先生（仙台二高九回

卒）の六名の先生の御来臨

を仰ぎ、楽しく一夜を過ごすことが出来ました。宿泊

組は夜遅くまで五十年前の昔にかえって歓談し、な

つかしい思い出にひたることが出来ました。

最後になりますが仙台二高の益々の御発展を祈ります。

事務局から

この度中四十五回の同期の方々から、学校へと御寄付を頂きました。教育振興に役立てたいと思います。有り難うございました。

二中四七会その後

中 47 回卒 佐々木 一 弘

我々同級生のほとんどが、平成六年で、豊鈴手帳を交付される。仙台市の場合が一満六十五歳を迎える。そこで、前年六月宮城県議会議員に就任した斎藤（栄）の祝賀とあわせて、六年十一月、秋保で初めて一泊のクラス会を開いた。

総勢三十六名。有朋自遠方来では、大阪から田辺、長野から鹿野、東京周城から小松・横山（七・若生・石川らの諸君。

懇親会は、二中時代の思い出話をはじめ、近況・来歴・PR・CM等々一人ずつのスピーチに、そのつど



回想やら共感やら、爆笑やら、浴衣のクラス会ならではの寛いだ、楽しい集まりだった。

二次会では、カラオケにダンスに、口角泡を飛ばしての歓談（？）に、それぞれ、往年の悪童ぶりや、その後の国分町辺での不良〇年ぶりを十分に偲ばせた。

深更、閉会後も別れがたく部屋に戻って延々と交歓続行の組もあれば、早朝暗いうちからベッドに起き上って話し込む組もあり、初の温泉クラス会は賑やかに、愉快に、盛況裡に幕となり、翌朝晴々と解散した次第。

その後、七年五月に、ラッパの斎藤（宏）が九州久留米から来仙した。福地（俊）、菅原（智）を通じての連絡で、悪友連十八人が集合し、卒業以来の旧交を温めた。

陸上自衛隊を二佐で定年退官後、彼地に落着いた由。来年、平成九年は、卒業五十年となる。

時折集まる飲み仲間、盛大に五十周年記念クラス会を、との声がある。

グッドアイデアがあれば、乞連絡。

六年十一月一氏家、七年四月一和和、十月一庄子（喜）が逝った。

在仙の大和田には、級友八人が、校歌で葬送した。

北陵二期会 について

高2回卒

山口 正一

還暦もはや過ぎ、第二の職場もそろそろ終わりに近づきつつある我々の集い、北陵二期会とは数字が示す通り高校二回卒の同期会であります。

多士済済(?)ではあります、中でも甲子園で活躍した二階堂投手と一緒の学年と云った方がわかりよいのではないのでしょうか。

我々は戦争の最中に仙台二中として入学し、軍事教練でしごかれていた中に終戦を迎え、仙台二高と変わ

り六年間在籍の後卒業した者達であります。六年間の交際は二高の歴史の中でも珍しい方で従って結束の固さを誇り毎年の同期会は四・五十名の出席を欠かしません。しかしながら恩師の出席が年々になくなるのは寂しい限りです。又、入学時二百五十名だった同期生も物故者が四十名となり他の学年に比し特に多いのはどうしたものでしょうか。

真に痛恨の極であります。東京在住の諸君も年一回ホテルオークラで相集い気炎を挙げている処です。

ともあれ今後共、年を忘れ意気軒昂といきたいものと考えております。

仙台二高(高四)在京同期会だより

「平成八年在京同期会総会開催される」

高4回卒 石垣 金子

恒夫 清 松島 璋

仙台二高(高四)在京同期会総会が平成八年六月七日(金)に新緑爽やかな東京・芝公園の郵便貯金会館「メルパルク」で開催された。今回の会場となった郵便貯金会館「メルパルク」は我々が同期の郵政大臣日野市朗君のご縁で特に選ばれたもの。

参加者は四十八名(案内状発送一五四名、うち回答者百十九名)、なつかしい顔・顔々である。

定刻の六時に今年の幹事団を代表して、石垣清君が明るく開会宣言、同期会会長出村博君の挨拶は、還暦を越えたわれわれの健康にふれた、とてもいい挨拶で会場は一気に和んだ。乾杯

の音頭は壇上から眺めて一番ノッポの高柳瞭三君が指名されていよいよ開宴、グラス片手に(当日は飲み放題)、料理両手に(食欲は確実に落ちてきました)、

会場の随所に人の輪がで、旧交をあたため状況を交換する「話の花」が全開となった。頃合をみて久しぶりに出席した友や、遠来の友が近況を報告(岩淵武彦君、

鈴木信悦君、岩瀬慶孝君、佐藤裕君、恒例のビンゴ大会は「定番」の大森重男君・一力純君のコンビで軽妙に進行、お楽しみみのカラオケ大会は常連・真打ちの登壇が相次いだ。宴(うたげ)の終盤には次回幹事の指名と引継式がユーモアたっぷりに行なわれ、そのボランティアに徹する「幹事引受宣言」は会場を沸かした。又、タイミング良くこのたび刊行の運びとなった、我々の思い出集「同期のいぶき」の紹介が、北陵会編集スタッフ代表の大石明君から行なわれた(「同期のいぶき」は当日会場で実費で頒布された)。

最後はこれまた恒例の校歌・凱歌が小林國泰君のリードで斉唱され、菅原利之君の「フレフレ二高」のしめで総会は無事終了、共に友情を深めあう同期会総会、来年の再会を約して午後九時に散会となった。今回出られなかった方も、お誘い合わせの上、次回には是非お出掛け下さい。

次期幹事は渋谷栄介・一力純・大沼宗夫の三君です。

三六会通信

高13回卒

菅野 昭雄

妻無し子無しの林子平が六無斎ならば妻も子もあり早まった若気の持ち主は孫までもあるという五十年代半ばの我が同期会は「サンデー会」と称している。当然卒業年度の昭和三十三年がルーツではあるが、発会当時の名無く金無く地位も無しの「三無」であったかに記憶しているし、あと数年の還暦を迎え、老境に立ち入らば「散夢」にもなるうかとも考えている。

ともあれ毎年七月の第四土曜日に開催される例会は皆勤に近い常連に加え「今浦島」と称される新顔が加わり年々参加者も増え続けて十八才の少年にタイムスリップして、「あの頃」の「あの話」があきることなくフレイバックされる。容貌、体型はまさしく、五十路の坂を下る人なれど輝く瞳と口調の若さに己の年令を忘れてしまった程の不思議な時空間を体験させられる真夏の夜の毎年の出来事である。尚、仙台での会合とは別に例年一月には東京での同期会も開催され仙台からも馳せ参じるし、仙台での例会の前後に行われるゴルフは、在仙組と帰仙

組との対抗戦の型式で勝敗を分け合っている。

団塊世代の

馬力

高19回卒

庄子 友康

高校十九回は昭和二十三年を主に二十二年、二十四年生まれで構成される学年で、まさに団塊の世代の中核です。在校当時は八クラス約四百二十人と数が多いため、顔なじみにならないでしまった人も結構いました。が卒業後はそんなことは関係なく皆でよく寄り集まるとくに多喜旅館の伊勢

隆一君という名幹事のおかげで同期会を昭和五十六年から五年毎に開いている。毎会遠来の人も多く、百人程が恩師とともに実に楽しい時を過ごしてきた。本年は今年が同期会の年にあたるのですが、今年は我々が同窓会の当番期でもあったので皆が集まる機会が多くなり、同期会は来年に順延となりました。この場を借りてお報せします(なお前回以降住所等に変動があった人は伊勢君まで連絡下さい)。

団塊の世代の我々は、数の多きゆえ常に世の中の主流でしたが、四十才台の後半を迎え若干パワーが落ちたことは否めません。しかし我々は元々人一倍馬力のある世代です。最後まで

我々の

現況報告

高23回卒

大山 匡

我々二十三年生は、昭和六十三年に当番期が回ってきましたので、これを期に同期の輪を固める目的に、同期会名簿を作成し、二回目の同期会を一月一日に行ない、六十名の参加を得ることができ、七月の同窓会には何とか役目を果たす事が出来ました。その後は定期戦、同窓会毎に数名ずつは懇親を深めてはいますが、同期会は開催して居りませんでした。この度我々二十三年生は百周年における栄えある当番会期に当たっており、これから数年かけて同期生のタガを絞めるべく、同期会等を開催していこうと計画を立てて居ります。

さて我々が学生の頃は、お隣の教養部において学生運動が花盛りの頃でありました。この影響は高校にも及び、制服の自由化や応援団の解散、北陵祭における一部大学生を含めた学生による教室の占拠、これに引き続く警官隊の導入等話題には事欠かない年代ではなかったでしょうか。皆さんに再会する事を楽しみにしております。

で突っ走りたいものだと思います。

同窓生通信

甲子園に夢を

中 35 回卒 石井 孝雄



昭和十年三月卒業、さんご会と名づけ毎年一回二十数名集る。今年五月遠刈田温泉で開催し、雪壁残る蔵王を訪ね、二中遭難碑に献花した。堀見沢井岡先生は九十五才と尚健在だがご参加出来ず残念でした。二高野球部は昨年春県大会で優勝し甲子園は夢ではないと宮城大会に応援に駆けつ

けたが、三回戦で破れる。しかし球場で聞く校歌には感入でした。母校創立百年記念にも是非とも夢を叶えて貰いたく、一層の奮起を期待したい。

三一会会長に

されたの弁

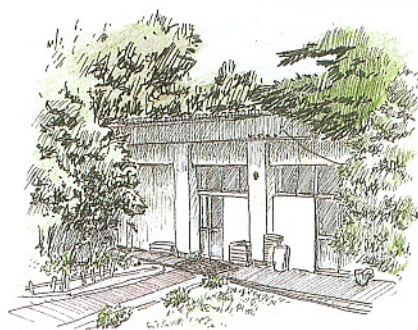
高 7 回卒 山形 淳

三十一年卒業、十二年丑年生れ、現職は山形内科消化器科院長。

来年三十一年卒の三一会は還暦を迎える。サラリーマン生活を終える人、新しい仕事を始め、第三の人生をスタートする人様々である。私は定年のない開業医で、常時医院内においていつでも連絡可能、又風邪等の時にも便利である等々の理由で五年前より三一会の会長にされてしまった。来年の還暦のクラス会の準備と記念誌の編集で幹事諸兄と伴にがんばっている。

五十の手習い

高 14 回卒 佐藤 明吉



「留学」、この言葉にどれほど憧れ、どれほど実現を夢見たことだろう。五十才を過ぎてその夢が叶い、私は今、英国はオックスフォードにいる。しかも、日本での仕事と両立させる為、偶数月は日本、奇数月は英国の二重生活だ。英国英語を学びたい、この一念で始め早や一年以上が過ぎた。語学上達の実感はないが、欧州の視点で日本を見るという素晴らしい副産物を得た。見慣れた光景が立体的に二重に見えるのである。そして益々日本が好きになった。今、CPEを目指している。英国人も落ちる英語検定だが、五十二才の青春の情熱を燃やしているのである。

クラブ活動OB会より

バスケットボール部北陵会

の現況について

高 4 回卒 萩 原 邦 明

仙台二高バスケットボール部北陵会は、昭和二五年三月（一九五〇年）創立いたしました。その際には先輩方のご活躍の状況を鑑みながら把握に努めました。戦時下の事でもあって確認が困難となり一応旧四十三回の大石先輩を筆頭として二十五名で発足いたしました。

会目的は御多分にもれず会員相互の親睦と、現役バスケットボール部の発展向上に努める事です。主な事業としては北陵会としても各種競技会に参加する事と卒業生の中から適任者を現役指導のコーチとして派遣する事にしております。

現在の会員数は四百五十名を数えそれぞれの分野において活躍されている傍らいろいろとご配慮を頂いております。

事業の具体的な活動の中で、競技会の参加がありますが、競技可能なOBが中央の大学とか、就職先が在仙でない方が大半で、僅かな人数で都合付け合いながら試合に臨んでおります。現役に対しては、練習時における協力特に合宿時には帰仙組を含めて一日約五十名位が入れ変わって参加してくれまして、現役の技術向上特に試合運びの練習に加わって頂いております。また経済的な面では、合宿時・遠征時に支援をいたし、試合時のユニホーム等も時期的に不要になった際は補助し新調いたしましたなど行っております。全国大会・東北大会への出場を目標としている現役でありますので、その目的が達成された場合は、特に会員に報告のうえ過分なる援助資金

の納入をお願いいたします。
特筆すべき事業では、毎年一月末頃に二高への入学範囲の中学校六、八校を対象として技術講習を兼ねた競技会を開催し、参加記念賞・個人賞を授与しながら、受験・入学を期待する会を運営しております。

通常の会員会費は、学生千円、社会人二千円ですが、部後援活動費三千円も別途頂いております。

過去における部戦績は、インターハイ出場八回、国体出場一回（五位）、全国選抜大会出場一回（四位）、東北大会出場九回（優勝一回、二位一回）が主なものです。会員の中で特に活躍中の選手がおります。高四一回の阿部理君で、卒業後慶応大に入学し大学ではユニバーシヤード日本代表、現在 NKK に就職中で全日本代表選手として活躍しております。

仙台二高創立百周年時に、時恰も北陵会発足五十周年、一・二高定期戦開始五十周年になりますので、学校側とも相談のうえ記念事業を検討すべく実行委員会の組織を準備中であります。定期戦開始当

初は、茶畑会、北陵会両 OB 会が中心となって開催いたしましたのであり、試合は敵対心をむき出しにして、切磋琢磨し合った間柄だけに心に残る事業を実施したいと存じております。

この北陵会が現役の部活動と共に一体化し、発展し継続している現況を顧みる時、部顧問であった佐藤忠男先生の精力的なご尽力により纏まりを獲たものと感謝しております。先生には昭和三十七年から平成六年までの三十二年間の長いこと関わりを持って頂き、三百五十名の卒業生に対しご指導を賜わり、現在もお敬慕の念をもってお付き合いをさせて頂いております。

残念ながら定年一年前に病魔の侵すところとなり現在も療養中ですが、今までの会への功績として顧問として推戴いたし、感謝の意を表わしております。

会員は現役と共に更なる進展を望み北陵精神に則り、文武一道に徹した伝統の力を發揮進んで参りたいと存じております。

現在の役員は次の通りです。

顧問	佐藤 忠男
会長	星 博晃
副会長	萩原 邦明
	小西 巖
	加藤 雄一
	笹気 光祥
幹事長	佐藤 真敏
会計	嶋田 俊治



噫呼、懐かしの応援団

高 5 回卒 早 坂 明 一 朗

昭和二十七年、仲の瀬橋と瀧橋の袂に二人ずつ幹部が潜んでいてサボって帰る下級生に凄みをきかせて戻らせたこともあった。私が当番でいたとき一年生がやってきた。姉さんの結婚式があるため帰らせなくて言う。当番で一緒だった N 君が「姉さんの結婚と二高と、おまえ、どっちが大切なんだ!」と戻そうとするのを「いや、帰してやれ」と腕力と知力のある N 君に、劣等幹部だった私が精一杯の抵抗して帰したが、もう四七年前になってしまった。

昭和六十年、第一回応援団幹部 OB 会がニュー・モリスエで開催され、堀田同窓会長始め来賓のご臨席を頂き、約四十名の参加を得て、青春時代の熱気が会場に充満、その日は評定河原で対一高戦にサヨナラ勝ちしたこともあって全員勝利の祝杯に酔い歌い、冠絶たる二高の思い出を語りあった。梅津君、猪股君、田中君ほか多くの後輩幹部がこ

の会発足に尽力された。OB 会長も佐々木実（高三回）菅原武輝（高六回）から現在は大泉富美夫（高七回）と三代目になり、ますます発展しつつある。常任委員は各回期一名ずつ選出、年一回名簿作成し、対一高初戦の土曜日に総会がもたれる。特別会員として浅野史郎（高十八回）、堀田会長、学校長、県・市議の臨席を得て、二高のさらなる発展と文武一道の伝統を確認しあうのである。

すべて二高生は母校に対する愛着は強いがその中でも超愛校心が顕著なのは応援団幹部と自負する。当時応援団幹部は各運動部から自薦、他薦で構成され、対一高野球定期戦の応援が主であったが、第一回高校総体から総合四連覇という偉業からその後有志でバスケット、バレー等他の部にも旗を持って応援に行ったことが懐しく思い出される。

平成 7 年度 行 事 報 告

年月日	行 事	会 場 : 時 間	備 考
平 7. 5.11(休)	当番幹事打合せ会① ＜高 6・18・19・30・31＞	二高会議室：18時～	
5.17(休)	臨時役員会（三役）	二高校長室：15時～	
6. 7(休)	役員会（三役） 常 任 委 員 会	二高校長室：17時～ 二高会議室：18時～	
6.22(休)	当番幹事打合せ会②	二高会議室：18時～	
7. 1(出)	総 会	仙台ホテル：18時～	
7.22(休)	臨時役員会（三役）	二高校長室：15時30分～	
12.1(休)	当番幹事打合せ会① ＜高 7・19・20・31・32＞	二高会議室：18時～	
12.28(休)	100周年事業に関する役員会 （三役・PTA・学校）	二高校長室：15時～	
8. 1. 9(休)	当番幹事打合せ会②	二高会議室：18時～	
1.17(休)	P 同 懇 親 会	仙台ホテル：17時30分～	
1.19(休)	100周年事業に関する役員会 ＜ワーキンググループ会議＞	二高校長室：15時30分～	
2.15(休)	＜ワーキンググループ会議＞	二高校長室：13時30分～	
3.25(休)	＜ワーキンググループ会議＞	二高校長室：15時～	

平成 8 年度 行 事 予 定

年月日	行 事	会 場 : 時 間	備 考
平 8. 5.9(休)	＜ワーキンググループ会議＞	二高校長室：15時～	
5.14(休)	当番幹事打合せ会① ＜高 7・19・20・31・32＞	二高会議室：18時～	
6. 3(休)	臨時役員会（三役）	二高校長室：16時～	
6. 7(休)	役 員 会（三役） 常 任 委 員 会	二高校長室：17時～ 二高会議室：18時～	
6.25(休)	当番幹事打合せ会②	二高会議室：18時～	
7. 6(出)	総 会	仙台ホテル：17時30分～	
7. 1	名簿管理委員会	二高会議室：	
8. 1	名簿委員会	二高会議室：	
11.28(休)	当番幹事打合せ会① ＜高 8・20・21・32・33＞	二高会議室：18時～	
平 9. 1. 1	当番幹事打合せ会②	二高会議室：18時～	
1. 22(休)	P 同 懇 親 会	仙台ホテル：17時30分～	

(全会員への会報送付は10月下旬～11月上旬)

当番回期の確認 ○で囲まれた回期がメインの当番

	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年
同窓会総会（7月第1土曜）	高 ⑦ ⑩・⑪ 20・32	高 ⑧ ⑫・⑬ 21・33	高 ⑨ ⑭・⑮ 22・34
P 同懇親会（9年1月22日(休)）			

平成 8 年度
同窓会総会次第

司会進行…事務局 横山文彦

○物故会員の冥福を祈り、黙

① 開会の辞 副会長…藤原佐一郎

② 会長挨拶 会長…堀田 康哉

③ 議長選出 議長

④ 協 議

(1) 役員補選

(2) 平成 7 年度…行事報告

I 部

司会進行…高 20 回

懇親会次第
(18時00分～20時00分)

⑥ 連 絡 副会長

⑤ 閉会の辞 副会長

④ 副会長…石井 敏夫

③ 平成 7 年度…決算報告 事務局

② 一般会計 ① 特別会計 ③ 監査報告 監事…三浦 義朗

④ 平成 8 年度…行事計画案 事務局

⑤ 平成 8 年度…会報発行について 事務局

⑥ 年会費の値上げについて 事務局

⑦ 平成 8 年度…予算案 事務局

⑧ 創立百周年記念事業について 事務局

⑨ 副会長…石井 敏夫

⑩ 百周年基金の前倒し使用について 事務局



II 部

司会進行…高 19 回

○祝 儀 披 露

○アトラクション

○応 援 歌 高 19、20 回

⑩ 閉会の辞 高 20 回…新本 恭雄

⑨ 万歳三唱 副会長…菅野英之進

⑧ 校歌斉唱 副会長…石井 敏夫

⑦ 当番幹事代表挨拶 高 7 回…加藤 正彰

⑥ 会長挨拶 会長…堀田 康哉

⑤ 学校長挨拶 校長…木口倉之助

④ 来賓紹介・代表挨拶 叙勲者へ記念品贈呈 乾 杯 大先輩

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績

吹 奏 楽 部	全日本吹奏楽コンクール仙台地区大会 Aクラス銀賞 定期演奏会(7月1日)
写 真 部	平成7年度第2回宮城県高等学校写真展(県展)入選(11月8~12日)2年太田拓美「体育大会」 高文連「みやぎ高校画報」編集
物 理 部	青少年のための科学の祭典(盛岡大会)参加「光が虹色にみえる分光器を作ろう、ほか」 第2回宮城県高校総合文化祭参加「白色光再生ホログラフィの実験」 第39回日本学生科学賞「ホログラフィの実験」優秀賞 平成7年度宮城県高校生徒理科研究発表会参加「ホログラフィの実験 第4報」
美 術 部	仙台市内高校美術展参加(4点) 県高校美術展 入賞 小松英昭
放 送 委 員 会	NHK杯放送コンテスト宮城県大会出場 「飛び出せ高校生諸君」番組制作・放送(FM仙台より) 千代田区杯第33回全国高校放送コンテスト宮城県大会参加
J R C	宮城県大会で、日本赤十字社から銀色有功賞を受けた。
演 劇 部	北陵祭(前夜祭)参加
地 学 部	校外観測合宿(天童高原) 部誌作成発行

運 動 部 成 績

大会名	平成7年度	平成8年度	大会名	平成7年度	平成8年度
部 名	新 人 大 会	対一高 定期戦	部 名	新 人 大 会	対一高 定期戦
陸上競技部	110MH 6位(大川原) E3000M 2位(竹田) 1600Mリレー 準決勝	負	水 泳 部	総合4位 400Mメドレーリレー 3位 100M自由形 1位(木村) 200M平泳ぎ 1位(宮村) 100Mバタフライ 1位(木村) 100M平泳ぎ 3位(宮村)	総合3位 200・400M個人メドレー 1位(木村) 200M平泳ぎ 2位(宮村) 100M平泳ぎ 5位(宮村) 400Mリレー 4位 400Mメドレーリレー 4位 800Mリレー 4位 水球 2位
硬式野球部	甲子園宮城大会 ベスト8 仙塩地区ブロック 2位	負	ヨ ッ ト 部	1125艇 6位 959艇 7位 839艇 9位	—
軟式野球部	選手権大会 1回戦 新人大会 2回戦	優 勝	空 手 部	—	—
バレーボール部	仙台市民総体 2回戦 新人大会 2回戦	優 勝	山 岳 部	第5位(88.1点)	—
バスケットボール部	選手権大会 3回戦 新人大会 ベスト8	優 勝	ス キ ー 部	—	—
サッカー部	選手権大会 2回戦 新人大会 6回戦	—	剣 道 部	団体 個人	—
ラグビー部	選手権大会 新人戦	負	柔 道 部	団体 4回戦	優 勝
ハンドボール部	市民大会 ベスト8 新人大会 ベスト8	—	弓 道 部	団体県予選優勝 国体東北大会出場 新人大会 県大会準優勝 東北高校選抜大会 第5位 全国選抜大会出場	—
卓 球 部	団体 1回戦	—	ソ フ ト テ ニ ス 部	仙塩大会 団体3位	—
バドミントン部	団体 2回戦 個人 2回戦	—			
テ ニ ス 部	インターハイ 団体 1回戦 個人 単 2回戦 新人大会 団体 3回戦 個人 優勝(太郎丸) 複 優勝(太郎丸・野口) 全国選抜東北大会 団体 優勝	団体 1回戦 個人 単 優勝(太郎丸) 複 準々決勝 (太郎丸・野口)			
備 考 (全国大会・東北大会出場など)			ヨット東北大会 1125艇 9位(インターハイ出場) ボクシング 志田健(バンタム級)県大会第2位		

定 期 戦 の 結 果

ラグビー(1・1) 二高 10-15 一高	<三部>(5・18) バスケットボール 二高 56-47 (23勝) パレーボール 二高 2-0 (26勝) 柔 道 4人残して二高勝ち 二高(35勝) - 一高(48勝)
軟 野(5・4) 二高 12-3 一高	

<硬式野球>(5.10~12 於宮城球場・愛島球場)
(通算23勝20敗8分)

一回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
二高	0	0	0	2	0	0	1	1	0	4
一高	1	0	0	6	0	0	0	2	×	9

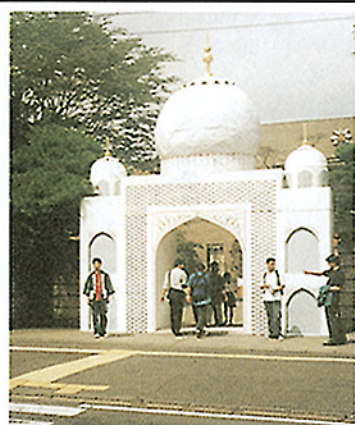
二回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
一高	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
二高	2	0	1	0	0	0	1	2	×	6

三回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
二高	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
一高	1	0	0	2	1	0	0	1	×	5





北陵祭モニュメント
「タージ・マハル」

- ◎ 寄 贈 図 書 ◎
- 「高橋貴和作品集 高橋貴和
作品集刊行会」
高16回 高橋 貴和 殿
「ビジネス通信ネットワーク」
遊佐 洋著
高30回 遊佐 洋 殿
「メトロポリタン美術全集
全13巻」 福武書店編
中34回 藤原佐一郎 殿
「スケッチイン仙台 Part
2」 小山喜三郎著
高3回 小山喜三郎 殿
「新日本古典文学大系第52巻」
山田 俊雄(等) 校注
中40回 山田 俊雄 殿
「近代日本戦争史1〜4」
中42回 佐藤 甲一 殿
「地球はいつ生まれたか」
小島 稔著
中32回 阿部 徹雄 殿
- 「トレーニングの生理学」
佐藤 捷著
高14回 佐藤 佑 殿
「都道府県別資産家地主総覧
(東北)(宮城)」
渋谷 隆一著
中47回 渋谷 隆一 殿
「曖昧文の諸相」
後藤 正紘著
高13回 後藤 正紘 殿
「同期のいぶき」
首都圏北陵会著
高4回 伊藤 恒夫 殿
「教育余録」 二科 博之著
中47回 仁科 博之 殿
「縁・山口家の人々」
山口 真一著
高6回 山口 真一 殿

平成8年度・平成7年度の主な大学の合格者数

(その1)

大 学 名 (学 部)		8年3月			7年3月		
		現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
東 北 大	文 教	3	4	7	3	4	7
	法 学	2	2	4	0	1	1
	経 済	8	10	18	7	6	13
	理 学	13	12	25	8	9	17
	医 学	6	2	8	2	1	3
	歯 学	3	0	3	2	1	3
	薬 学	1	1	2	1	2	3
	農 工	0	0	0	1	2	3
	計	27	23	50	29	19	48
	計	2	5	7	3	3	6
宮城	教育大	65	59	124	56	48	104
北海道	大	1	5	6	5	5	10
旭川	医科大	4	3	7	4	5	9
弘前	大	0	1	1	0	0	0
岩手	大	0	3	3	1	2	3
秋田	大	5	5	10	3	6	9
山形	大	2	4	6	0	0	0
福島	大	13	8	21	14	8	22
茨城	大	7	1	8	4	8	12
筑波	大	1	1	2	1	1	2
宇都宮	大	1	6	7	3	4	7
埼玉	大	1	2	3	1	3	4
千葉	大	1	3	4	2	4	6
東京	大	2	5	7	1	3	4
東京	大	3	2	5	5	4	9
東京	大	1	2	3	1	1	2
東京	大	2	0	2	2	2	4
一橋	大	1	0	1	0	2	2
横浜	大	4	4	8	1	1	2
東京	大	0	0	0	3	0	3
東京	大	1	1	2	2	1	3
新潟	大	0	3	3	3	5	8

(その2)

大 学 名 (学 部)	8年3月			7年3月		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
富 山 大	0	1	1	1	1	2
金 沢 大	1	0	1	0	0	0
信 州 大	1	0	1	1	2	3
静 岡 大	2	0	2	0	1	1
山 梨 大	0	1	1	0	0	0
京 都 大	4	5	9	4	1	5
大 阪 大	0	0	0	2	1	3
大 阪 外 語 大	0	0	0	1	0	1
高 知 大	0	0	0	0	1	1
広 島 大	1	2	3	0	0	0
岡 山 大	0	0	0	0	1	1
九州芸工大	0	1	1	0	0	0
そ の 他	1	3	4	2	3	5
国立大学合計	126	131	257	123	124	247
福島県医大	0	1	1	1	0	1
高崎経済大	3	1	4	0	4	4
横浜国立大	1	0	1	1	0	1
大阪府立大	0	0	0	0	2	2
東京都立大	4	1	5	0	7	7
そ の 他	2	4	6	1	5	6
公立大学合計	10	7	17	3	18	21
東北学院大	0	3	3	1	5	6
文 学	3	16	19	1	13	14
経 済	1	5	6	1	6	7
法 学	0	3	3	1	2	3
教 養	3	2	5	2	11	13
工 学	7	29	36	6	37	43
計	1	2	3	1	4	5
東北工業大	0	1	1	0	0	0
東北福祉大	0	1	1	0	0	0
東北薬科大	1	4	5	0	2	2
石巻専修大	1	3	4	0	0	0
岩手医科大	0	4	4	4	1	5

(その3)

大 学 名 (学 部)	8年3月			7年3月		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
自治医科大	0	1	1	1	0	1
青山学院大	1	6	7	1	11	12
学習院大	0	3	3	1	2	3
慶応義塾大	8	18	26	5	20	25
工学院大	1	4	5	1	5	6
駒 沢 大	1	1	2	0	4	4
芝浦工業大	3	3	6	1	9	10
成 城 大	2	1	3	1	2	3
上 智 大	0	3	3	1	6	7
専 修 大	2	1	3	0	4	4
中央大	2	19	21	0	21	21
独 協 大	1	3	4	2	1	3
東京理科大	3	30	33	4	38	42
東 洋 大	0	3	3	0	1	1
日 本 大	4	8	12	1	16	17
法 政 大	0	8	8	0	17	17
武蔵工業大	0	1	1	0	4	4
明治大	2	20	22	1	23	24
明治学院大	0	4	4	0	13	13
立 教 大	0	7	7	0	8	8
早 稲 田 大	6	22	28	10	21	31
神 奈 川 大	1	3	4	0	2	2
同志社大	3	8	11	0	6	6
立 命 館 大	4	30	34	0	17	17
関 西 大	0	1	1	0	6	6
そ の 他	5	26	31	9	53	62
私立大学合計	59	277	336	50	354	404
防衛医大	0	2	2	0	0	0
防衛大学校	0	4	4	1	2	3
そ の 他	0	2	2	1	2	3

今春の人事異動

〆転任・退任の方々〆

菊地 実教諭(退任)

瀬戸 保男教諭(退任)

(平成八年三月十四日逝去)

河岸 敏郎 教諭(保体)

(矢本高へ)

藤岡 恭 教諭(音楽)

(宮一女高へ)

今野 俊之 教諭(英語)

(仙一高へ)

伊藤 需 教諭(英語)

(浦谷高へ)

石上 正敏 教諭(理科)

(県指導課へ)

渡辺 幸治 教諭(保体)

(角田高へ)

貝沼 信之 教諭(数学)

(仙一高へ)

秋山 啓一 係長(総務)

(津谷高事務室長)

伏見 清志 係長(経理)

(古川工高へ)

後藤 昇 技師

(県管財課へ)

〆着任の方々〆

瀧口 和也 教諭(数学)

(宮一女高より)

沼津 恒敏 教諭(国語)

(利府高より)

藤倉 聖 教諭(保体)

(名取高より)

熱海 有子 教諭(音楽)

(宮一女高より)

佐藤 満 教諭(英語)

(仙台高より)

大野 剛 教諭(理科)

(白石高より)

佐藤 有功 教諭(保体)

(柴田高より)

藤木 雅之 教諭(数学)

(宮一女高より)

森 俊之 教諭(英語)

(仙台東高より)

白鳥 榮喜 係長(総務)

(志津川教育事務所より)

山本 香織 係長(経理)

(大河原教育事務所より)

照井 春男(技師)

(宮一女高より)

〆報〆

瀧戸先生の急逝を悼む
国語科 芳賀 誠

三月十四日、我々は「瀧戸先生急逝」の報に接し、あまりのことに言葉が出ませんで

した。

「まさか! どうして!」言葉にならない呻きのようなもので胸が一杯になりました。

瀧戸先生は平成七年四月に二高に赴任されて、すぐにわれわれ教師と生徒達の心をつかんでしまわれました。先生は実に楽しく授業をなさいました。「生きることは愉快だね。」先生が終生求めた、生きることの意味・正しい姿勢を私たちは忘れません。

合掌

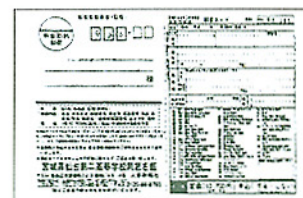


事務局たより

創立百周年記念事業の一貫として、九十周年記念事業と同様に同窓会会員名簿の発行を計画しておりますが、最近特に会員の皆様から問い合わせをいただいている件についてお答えとお願いを申し上げます。

上げます。

◎会員の皆様あてに郵便往復はがきで「宮城県立仙台第二高等学校名簿作成用調査カード」が送られておるようですが、仙台二高同窓会事務局とは一切関係ありませんのでご注意ください。



◎同窓会では各回期から選出されている名簿委員の皆様のご協力をいただきながら、会員の皆様からの住所変更書やその他連絡をいただき、平成十二年発行に向けて逐次名簿を整理する作業を進めております。百周年に向けて名簿を発行するために今後会員の皆様にご協力をお願いすることがあるかと思いますが改めて葉書や会報並びに名簿委員の皆様を通じてご連絡いたします。なお現在、死亡されている方々を含めて、万人に及ぶ会員の皆様の名簿を管理しております。住所等がはっきりしている会員約一万八千人に年会報をお送りいたしております。

編集後記

創立百周年も間近、今回は「三十年の」というテーマで原稿を依頼いたしました所読みごたえのある原稿が寄せられました。有り難うございました。

「百周年記念誌」もそろそろ始動しなければなりません。が、先輩諸兄のお手元に校史編纂の資料となります。記録や写真・文章などございましたら、同窓会事務局に暫くお貸しください。

(文責 芳賀 誠)

